

1 本年度の重点目標

- 1 地域連携型中高一貫教育の推進と深化に努める。
- 2 多様な生徒に対応したきめ細かな指導(学習・生活・進路)を徹底して、情豊豊かな人格の形成、学力の向上と進路目標の実現を図る。
- 3 教育活動の積極的な広報・PRに努め、生徒・保護者・地域の期待と信頼に応えられる開かれた学校づくりを実践する。

2 学校経営方針

- 1 中高連携事業の工夫・改善
(1)基礎学力の向上 (2)個性の伸長 (3)社会性の育成 (4)研修と広報
- 2 多様な生徒に対応した指導の工夫・改善
(1)生徒の進路実態(進路希望)に応じた指導 (2)多様な生徒へのきめ細かい対応(学力の向上と学力の保証)
(3)多様な生徒へのきめ細かい対応(生活指導の充実) (4)多様な生徒へのきめ細かい対応(進路指導の充実)
- 3 開かれた学校づくり
(1)学校HPのタイムリーな更新と情報提供 (2)広報誌の発行(連携便り) (3)ビデオ等の作成(中学校訪問等での利用)
- 4 魅力ある学校づくり
(1)県事業予算の積極的活用とおとした学習活動 (2)未知の分野の学習活動 (3)新たな学びのスタイル
- 5 活気のある職場づくりと信頼される教職員を目指す
(1)時代の変化に即応できる組織体制 (2)常に工夫・改善を行う意識 (3)情報収集と発信、情報の共有化 (4)研修への積極的な参加
(5)危機管理意識の向上 (6)健康管理 (7)綱紀の粛正

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

「自己評価結果」のA,B,C,Dについて

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

学校関係者評価の「自己評価の適切さ」のA,B,C,Dについて

A 適切である B おおよそ適切である C あまり適切でない D 適切でない

学校関係者評価の「改善策の適切さ」のA,B,C,Dについて

A 適切である B おおよそ適切である C あまり適切でない D 適切でない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	要因または改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	1 生徒に対して学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業を行っている(学習指導)	A	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、言語活動の充実、ICT機器の活用、アクティブラーニングをテーマとした研究授業の設定を行った。今後も生徒の学習意欲を引き出すような授業の工夫に努めたい。	A	A
	2 始業開始や家庭学習の習慣化等で学習習慣の確立がなされるよう指導を行っている	B	各教員が授業の心構えなどを喚起しており、落ち着いた学習姿勢が見られる。週末課題などを実施しているが、みやぎ学力状況調査による家庭学習時間の結果は芳しくない。学習習慣の確立に向けた取り組みの検討を要する。	A	A
	3 表現学習を通して「読む」「書く」「話す」「聞く」ことの習慣化がなされている	A	総合的な学習の時間での表現学習や図書視聴覚部で実施している読書指導が、教職員、生徒ともに高い評価となった要因と考えられる。次年度以降も継続しさらに充実させたい。	A	A
	4 授業力の向上に努めている	A	授業公開、研究授業、要請による指導主事訪問などを通して授業力向上に努めている。特に今年度は、研究授業において付箋紙を利用し、合評会でプラス面、マイナス面を焦点化することで、次時以降の授業につなげることができた。しかし、生徒の学力アップのためには、さらなる工夫・改善が必要である。	A	A
学校関係者評価者による意見 今後も生徒の学力向上に努めていただきたい。					
生活指導	5 生徒に対して、挨拶やマナーなど基本的な生活習慣の確立に関する指導を行っている(生徒指導)	A	教職員による朝の立ち番指導や生徒会などによるマナーアップ運動、授業等における挨拶の励行など、はじめある生活の習慣化に努めている。今後も生徒を主体とした取組を継続して実施していきたい。	A	A
	6 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じる体制ができています(教育相談)	A	週に1回の相談日を設けており、生徒が利用したいときに随時対応できるようになっている。今後も生徒の情報を教員間で共有しながら、スピーディな対応ができるように支援体制の充実を図っていきたい。	A	A
	7 学校として、部活動は活発に行われている(部活動)	A	限られた場所と時間ではあるが、平日の活動だけでなく、休日においても熱心な活動が行われている。今後も生徒に対して意欲を持たせながら、積極的な活動ができるように心がけたい。	A	A
	8 学校として、生徒会活動は活発に行われている(生徒会活動)	A	マナーアップ運動や募金運動など積極的な活動が行われている。また、今年度も県外から数多くの高校が来校し、活発に交流会が実施された。これからも、意欲的な活動ができるように、継続的な取り組みを行っていきたい。	A	A
	9 生徒にとって、有意義な学校行事がある(学校行事)	A	合唱コンクールや旭ヶ浦祭、体育祭などの学校行事において、生徒たちが主体的に参加している様子が窺われた。今後も内容等の工夫と改善を行い、充実した取組ができるように努めていきたい。	A	A
	10 学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている(いじめ問題)	A	いじめ防止のために、定期考査毎のアンケート調査の実施やホームルーム活動におけるいじめについて考えさせる活動を行っている。また、教職員に対する校内研修会を実施し、意識の高揚に努めることができた。	A	A
	11 生徒にとって、学校生活は充実している(総合満足度)	A	生徒は概ね学習、部活動、生徒会活動に意欲的に取り組んでおり、充実感が感じられる。今後は、地域との関わり合いを持ちながら、社会貢献できるような活動を積極的にを行い、生徒の達成感が得られるような学校づくりを目指したい。	A	A
	12 社会的規範の遵守がなされるよう指導している	A	自分の姿は他者からどう映るかを、常日頃生徒に意識付けており、生徒は落ち着いた生活を送ることができている。今後も生徒の変化を見落とさず、すぐに対応できるような体制を整えていきたい。	A	A
	13 情報モラル教育を十分に行っている	B	新入生に対しては、入学早々に携帯電話・スマートフォンの使い方についての指導を行っている。また、全生徒に対しては、県警本部から講師を招きネット被害未然防止講話を実施し、マナーについてしっかり身につける指導を行っている。	A	A
	14 放課後の生徒の様子を把握している	B	不定期ではあるが、駅や商店街を中心として教職員による巡回を行っている。生徒たちは放課後も部活動や学習活動に励んでおり、比較的落ち着いた生活を送っている。地域の方と情報交換しながら、非行防止に努めていきたい。	A	A
	15 リーダーシップの育成が図られている	B	生徒会役員を中心に積極的な生徒会活動が行われており、学校に活気を与えている。また、各種行事等においても、実行委員やクラス委員を中心として主体的な活動が行われており、リーダーシップの育成に繋がっている。	A	A
	16 学校として交通安全教育を十分に行っている	A	毎月1回、生活安全委員会を中心として交通安全運動を行っており、注意喚起を促している。また、全校生徒に対する交通安全講話の実施や、バイク通学者に対するバイク実技講習会を実施するなど、交通安全に対する意識の高揚に努めている。	A	A
	17 花壇整備や清掃などの美化活動が十分に行われている	A	清掃活動・花壇除草・植栽などは予定通り実施できた。生徒の数が減ってきているので、清掃分担区をこれまで以上に工夫し、少人数で対応できるようにしていきたい。花壇に植える花の種類、数を増やして花壇の充実を図りたい。	A	A
学校関係者評価者による意見 高校生のバイク運転の交通マナーや、生活安全課からの指導が昨年と比べると多くなっている。また、青少年のネット上の問題行動も増えているので、PTA総会等で保護者にも注意喚起したい。					
教育防災	18 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法を伝えるなど防災教育を推進している(防災教育)	A	年3時間のLHRを活用し、「共助」「公助」を中心とした防災教育、実践的な防災訓練等、取組んできた。また、職員についても校内研修を実施し、防災意識を高めるよう工夫してきた。次年度もより実践的な防災教育の充実に取組んでいきたい。	A	A
学校関係者評価者による意見 被災地にある学校なので、小・中・高とつながりのある防災教育をしてほしい。					

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	要因または改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
進路指導	19 生徒に対して、進路目標の明確化に向けた適切な指導を行っている(進路指導)	A	年間2回の進路面談、2学年でのジュニアインターンシップや各種ガイダンス等を行い、進路の明確化を早期より促している。次年度以降も継続し、適切な指導を行っていききたい。	A	A
	20 生徒にとって進路情報は適切に提供されている	A	生徒の進路希望に合わせて企業訪問や各種学校説明会に参加し多くの情報を得た。その情報を、各種ガイダンスを通し、生徒や保護者の方々に適切に提供することができた。	A	A
	21 生徒にとって進路学習は充実している	A	1・2学年では進路実現に必要な「文章表現力」を育成することを中心に学習を展開できた。3学年では、進路別に指導を行うことで、個々の適性や能力に応じた指導を行うことができた。	A	A
	22 進路指導部と学年の連携が図られている	A	学年の進路指導部員が適切に情報共有を図った。総合的な学習の時間の内容や進路指導情報などは確実に周知することができた。特に3学年の進路指導については学年との協力のもと実施できた。今後も連携の強化に努めていききたい。	A	A
学校関係者評価者による意見	今年も進路決定に向け、様々な取り組みをしていたことが分かった。今後も進路希望に即した指導をしていただきたい。				
学校づくり	23 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる(特色ある学校づくり)	A	地域の関連行事等には、福興市等積極的に参加した。また、連携型中高一貫教育では、今年度新たに連携だよりを南三陸町民に年3回毎戸で配布し、連携型中高一貫教育の取り組みについて理解を深めていただけるように努めた。	A	A
	24 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報を適切に伝えている(開かれた学校づくり)	A	学校便り(連携だより)や学年便りがタイムリーに発行された成果だと思う。今後も学校の情報が適切に伝わるよう心がけていきたい。	B	A
	25 学校HPはタイムリーに更新され、情報提供がなされている	A	ホームページをリニューアルし、定期的に更新をしている。また、今年度よりFacebookも開始し、タイムリーな情報の提供に努めている。これからも適宜情報を発信し、学校の様子が伝わるよう継続して取り組みたい。	A	A
	26 中学校訪問等で利用するビデオ等が適切に作成されている	A	各担当ごとに中学生向けのパワーポイントの内容を再検討して作成した。またオープンキャンパスや高校訪問の際に、年間の行事や生徒の活動の様子を納めたビデオを公開した。各々が連携を図り、さらに充実させたい。	A	A
	27 県事業予算の積極的活用をととした学習活動が展開されている	B	今年度も進路部では、公務員講習の講師謝金等で県事業予算を活用して取り組むことができた。来年度も積極的に活用したい。	A	A
	28 未知の分野の学習活動(企業・産業見学、大学見学、街作り等)が展開されている	B	1学年では、大学・企業見学によって進路に対する幅を広げ、2学年ではジュニアインターンシップを体験することで、地域の産業や職業感について学習している。今後は、大学での研究や様々な産業についても学習できる企画を検討したい。	A	A
	29 ICT活用等、新たな学びのスタイルを導入している	B	よりICT機器を利用しやすいよう、活用できる環境整備に努めたい。また、ICT機器の活用を難しく捉えず、可能な範囲での活用から新たなスタイルの導入につながるよう啓発していききたい。	A	A
学校関係者評価者による意見	生徒の活動の様子や学校での出来事を保護者だけではなく、地域に広く知ってもらえるような工夫が必要ではないか。				
施設設備	30 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている(施設整備)	B	校舎は老朽化がすすんでいる。校内で修理可能なものは技師が速やかに対応し、規模が大きなものには予算要求し対応している。	A	A
学校関係者評価者による意見	確かに校舎の老朽化はすすんでいるが、大切に使用されている様子が伝わる。震災後、グラウンドも狭くなり部活動も大変だと思うが、部員が少ない中よく整備されていると思う。				
連中連携	31 乗り入れ授業や「つなぎ教材」「チャレンジテスト」により基礎学力の向上に取り組んでいる	A	「乗り入れ授業」「つなぎ教材」「チャレンジテスト」と年度当初の計画通り実施することができた。昨年度と今年度のチャレンジテストの結果から、基礎学力の経年変化を見ることができた。	A	A
	32 「夢実現ファイル」「進路講演会」「進路情報交換会」により個性の伸長に取り組んでいる(H26)	B	「夢実現ファイル」「進路情報交換会」については、計画通り行うことができた。「進路講演会」については、中高教員研修会として実施することができた。「夢実現ファイル」の有効活用法の検討が今後、必要であると考えている。	A	A
	33 部活動の合同練習や学校行事・生徒会行事を通して社会性の育成に取り組んでいる	A	部活動顧問の協力を頂いて、今年度もいくつかの部活動で合同練習会を実施することができた。生徒会交流に関しては、執行部と図書委員の交流会に加え、ネパール募金活動等積極的に行うことができた。	A	A
	34 中高の教員研修や情報発信の充実に取り組んでいる	B	5月に、中高教員全体会を実施することができた。その後、合計6回の研修会を中学教員に呼びかけた。志高通信(連携だより)を月に2回ほどのペースで発行し、情報発信に努めることができた。	A	A
学校関係者評価者による意見	地域の子供たちの減少により、志津川高校も学級減になった。連携中学校からの進学希望者が多くなるよう、我々も志津川高校の生徒たちの活躍を伝えたいと思う。				
指新 導学 要習	35 新学習指導要領の趣旨に即した指導を行っている	A	教育課程の見直しを行い、生徒に知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」が育めるように、特に言語活動の充実を図り、ICT機器活用の推進に努めた。	A	A
学校関係者評価者による意見	特になし。				
職員	36 教育環境の変化に即応できる組織体制が構築されている	B	来年度より普通科1クラス学級減に伴い、本校に適している教育課程等、今後の学校運営について検討した。今後も教育環境の変化に即応できるように校内外の研修等を通して、より組織体制が構築できるように努めたい。	A	A
	37 常に工夫・改善を行っている	B	校内外の研修会や昨年度の反省を生かし、校内行事、時間割変更確認方法や研究授業等で工夫・改善が見られた。今後もさらに常に工夫・改善できるように努めたい。	A	A
	38 情報収集と発信、情報の共有化に努めている	A	情報収集と発信、情報の共有化については、職員会議や朝の打合せ等で行っているが、今後とも職員間の連携を密にして取り組みたい。	A	A
	39 研修へ積極的に参加している	A	県総合教育センター主催の研修会には11名の先生方が専門研修を進んで受講した。また、校外で実施される研修会等については、担当者が責任を持って呼びかけ、校内研修も充実していた。	A	A
	40 危機管理の観点からも報告を迅速に行っている	A	各部長や学年主任等から、大事な報告等については管理職に報告できる体制になっている。今後も迅速な報告ができるように努め、職員間の連携を密に取り組みたい。	A	A
	41 業務の軽減と効率化に取り組んでいる	C	校務業務の効率化について、将来構想検討小委員会で検討するため先生方にアンケートを実施したが、この時点で具体的な取り組みについては少なかった。来年度に向けて、年度末反省で各担当毎に具体案をだしてもらい、軽減と効率化に向けて取り組みたい。	A	A
	42 部活動の休養日の設定、休暇の適切な取得や早めの医療機関受診等、健康管理を行っている	B	どの部も週に1日は休養日を設けている。健康管理については、特に検診等養護教諭中心に積極的に呼びかけている。今後も、より休暇の適切な取得や早めの医療機関受診等ができる環境になるように努めたい。	A	A
43 綱紀の粛正に努めている	A	職員会議や朝の打合せ等で校長より指導をしている。今後とも綱紀の粛正に努めたい。	A	A	
学校関係者評価者による意見	健康に留意して、今後ともよろしく願います。				

4 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
24 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報を適切に伝えている。	リニューアルした学校ホームページに加え、南三陸町民への「連携だより」の毎戸配布回数や、学校行事のポスター掲示を増やし、生徒たちの活動の様子が地域の方々に伝わるよう努める。